

3-1

「原子力委員会の発足に際して」

三一、一三
原子力委員会

一九五六年の年明けとともに、本原子力委員会が正式に発足し得たことは、まことに欣びに堪えません。

吾界で唯一の原爆被害国たる日本が、受難の洗礼を乗り越えて原子力平和利用への積極的な国家活動を開始したことは、ひとり邦家のためばかりでなく、世界的にもまた大きな意義を持つものと確信します。

日本は原爆の恐しさを身をもつて体験した国だけに、二度と再びかかる惨禍を世界のいかなる人類にも及ぼしてはならないという固い悲願をもっております。われわれ

(1)

c111-005-004

れもまた当然原子力基本法の定めるところに従い、すべ
ての努力を平和利用の一点に集中して、いささかたりと
も戦争の具に供するが如きことのないよう誓を新たにし
ているものであります。

人類がかつて想像することも出来なかつた巨大なエネ
ルギーが、原子核の分裂による許りでなく、更にまたそ
の融合反応によつても生れ出るものであることを、われ
われは知るに至りました。われわれは単に科学の進歩の
速さと偉大さに目をみはるばかりでなく、これによつて
人間社会を改善し、世界の平和と繁栄のために尽すべき

一層の責務を痛感するものであります。

御承知の通り、その国の生活文化の水準は、エネルギ
ーの消費量にほぼ比例するものといわれます。わが国が
今後とも正常な発展を続けるためには二十年後には現在
水準の二倍に近いエネルギーを必要とすると推測されま
す。他方、わが国の主要エネルギー源である石炭、水力
等についてみれば、資源的にもまた経済的にもその限度
に達しつつあり、次第に需要に追いつかなくなることは
火をみるよりも明らかであります。これではわが国の経
済発展の将来性すらも危ぶまれるといわざるを得ません。

われわれが原子力発電を速かに実現して、わが国産業経
済の興隆に資したいと念願している大きな理由もここに
あります。米ソ両国では既にその実験に成功している前
例もあり、われわれとしても今後五ヶ年間に原子力発電
の実現に成功したい意気込みであります。

更に原子力のエネルギーへの利用は、その一面にすぎ
ず、それから同時に生ずるアイソトープの利用は、医療、
農業、工業の各方面にわたつて、前者に勝るとも劣らぬ
積極的な意義をもつております。われわれは即時役立つ
ものから次々とその活用普及を図つて行きたいと考えま

す。

これらの目的のため、われわれはまず第一着手として、
濃縮ウランの受入に関する「日米原子力協定」に基き、早急
に実験原子炉を米国より導入し、進んで先進技術を取入
れつつ、急ぎわが国独自の自主的基盤を固めなければな
らないと考えて居ります。

ただ、今日われわれが原子力開発の仕事に献身する決
意を固めたのは、単に日本及び日本国民の利益のためば
かりでなく、いささかでも全世界の人々の平和と福祉に
寄与したいと念願しているが故に外なりません。殊にア

アジアの現状をみると、その生活水準は世界の他の地域にくらべ、極めて低く、これが改善のため、われわれはわが国自体の発展に努力するとともに、原子力の研究開発の進展に伴い、アジア全体のエネルギー開発と生活水準の向上にも協力したいと念願する次第であります。どうか国民各位並びに友邦諸外国の心からなる理解と支持をねがう次第であります。